

公民館の実践紹介⑨

光南台公民館

住民の主体的な活動を応援 ～「防災のつどい」をとおして～

地域の状況

光南台公民館は、岡山市の最南端に位置する光南台学区にあります。北は穏やかな児島湾、南東は瀬戸内海が広がる自然豊かで風光明媚な地域です。一方で、平成16年、平成23年には台風による浸水被害などがありました。そうした状況をふまえて、光南台公民館では平成18年度から防災講座に取り組んでいます。

町内会との協働

平成24年度には、岡山市で防災キャンプ事業が始まりました。光南台公民館では取組み開始の3年間は大規模な形で実施していましたが、



今後の事業継続を考えるにあたり、各町内に公民館と共催で、一緒にしませんかと呼びかけることにしました。災害への対応は、地域が自ら主体的に行うのがめざすところであり、各町内では立地条件など異なるものが多くあります。その呼びかけに、宮浦町内会の宮浦女性防火クラブ（当時は婦人防火クラブ）が応じてくれました。宮浦女性防火クラブは岡山市内にある女性防火クラブの一つです。子育て世代の方もおられ、青少年を対象とした防災学習についても取組みやすかったと思います。

こうして、平成28年度からは公民館と共催で、「防災のつどい～南海トラフ巨大地震による津波を



想定した避難訓練・体験学習～」を夏と秋の年2回開催することになりました。

「防災のつどい」の開催は町内会だけでなく、光南台学区に広報しているので、他の町内からの参加もあります。また、

小中学生も参加できるように、体験学習などを交え、毎年非常食を取り入れた料理教室も行います。宮浦女性防火クラブの会長さんによると、「今何を伝えたいか、今伝える必要があるのは何なのかを考えながら計画している」とのことでした。

毎年の経験が蓄積され、回を重ねるごとに内容もより充実したものになってきました。令和元年度の事業では西日本豪雨災害の話や、非常持ち出し袋を考えるワークショップなどを行い、多数の小中学生の参加だけでなく、大学生など新たな参加もありました。参加者からは「幅広い年齢の方とグループワークをすることで、いろいろな意見をきくことができる」、中学生からは「大人の人と協力してできて良かった」など、世代を超えて協力することの大切さも体験できました。

コロナ禍でもできること

令和2年度は新型コロナウイルス感染症により、内容だけでなく、実施できるかどうかの問題になりました。実施の見通しが立ちにくい状況の中、コロナ禍でも必要なことは中止にするのではなく、気をつけながらしていくということで、時期をずらして実施することにしました。

感染対策をとるために、例年行っている料理教室の内容は変更したり、定員数を制限したりし、安全も配慮した形で実施できました。

参加人数に制限があったので、公民館から防災のつどいの内容を参加していない人に知らせることはできないかと考え、公民館だよりに記事を掲載しました。「防災のつどい」で取り上げたローリングストック法（食材を使いながら、備蓄する方法）などについて紹介したところ、地域の方から内容についてのお尋ねがありました。これまでも職員が防災についての記事を度々掲載しており、講座以外に情報発信していくことも関心を高める上で大切だと感じます。

地域の中で主体的に活動している団体や個人は他にもおられます。そうした団体や個人につながっていけるように公民館がアンテナを高くもつこと、そして、公民館が連携することで、活動する団体や人を応援し、新しい波及効果を生み出す場となるよう、公民館として働きかけていきたいと思っています。